

コンセプト

「人と自然がつながる 私たちの“まちの駅”」

整備目標

駅は通勤通学の交通結節点であるとともに、暮らしの拠点であり、文化の拠点です。鹿島に暮らす人、訪れる人が憩う集う交流の場となることが期待されています。

1 鉄道を中心とした 交通結節点を強化し

“まちの交流循環拠点へ”

2 豊かな暮らしや 風景を感じられる

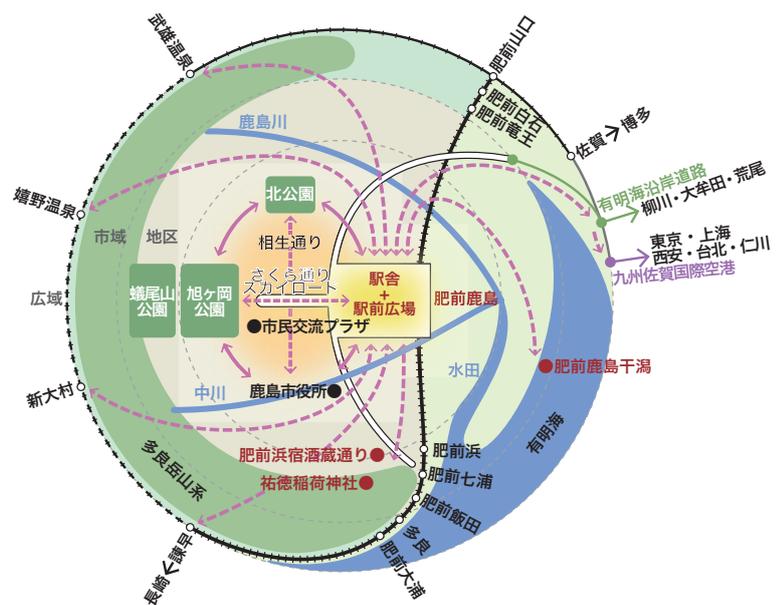
“まちの玄関口としての肥前鹿島駅へ”

3 歴史と文化を活かし

“賑わいあふれ 人にやさしい

駅周辺まちづくりへ”

● 全体構想の概念図



【発行・問合せ先】
鹿島市役所 都市建設課
電話 0954-63-3415

● まちなか整備基本方針

整備目標1～3を踏まえた上で、まちづくりの視点から、地区整備を推進していくための『整備基本方針』を次のとおり整理します。

★多年度かつ複数事業に渡る事業の一体性と一貫性を確保するための推進体制の構築
★駅舎と駅周辺整備への市民の参加機会確保と事業進捗状況の積極的な情報開示

⑥ プロセスとアプローチを大切にしたい駅周辺まちづくり事業への取り組み方

① 周辺地区を取り巻く豊かな自然環境の保全・活用

- ★山並み風景や肥前鹿島干潟等の自然環境の活用、生態系の保全
- ★駅と中心市街地とを繋げる緑のネットワークづくり
- ★市民の生活の場となっているネットワーク拠点（公園・商店等）の活用・創出

② 中心市街地に点在する歴史・文化・活動等の継承

- ★城下町期から近世に至る重層的な資産の保全・活用
- ★旧肥前鹿島駅舎を始めとする歴史的文化的資産の掘り起こし
- ★市内観光へ導くインフォメーション機能や案内サイン等の充実

③ 人にやさしい駅まちづくりのための交通コントロール

- ★多重縦列駐車や通過交通の排除による駅利用者の安全性の確保
- ★駅前空間において交錯している公共交通と一般送迎車両の整序化
- ★周辺観光拠点等への移動の円滑化と相互連携の強化・充実
- ★歩行者にやさしく、安全安心な道づくりの推進

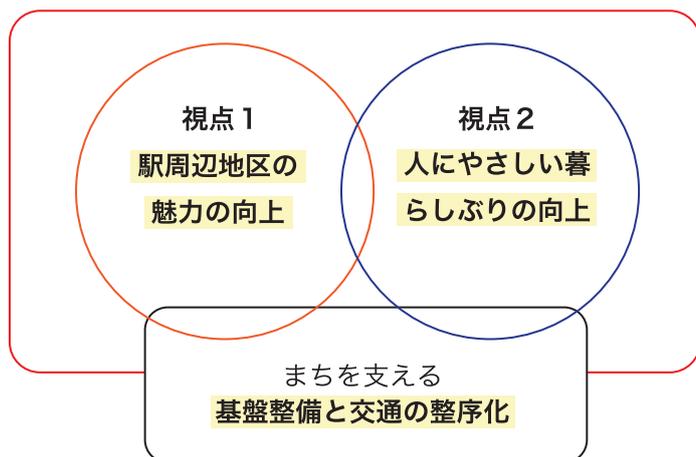
④ 暮らしやすさ、住環境の向上、市民のための居場所づくり

- ★人々の憩いの場、集いの場としてのまちなか既存ストックの活用
- ★新規出店しやすい空き店舗等の活用と支援環境の整備
- ★待合の場として快適な駅舎空間の強化・充実
- ★市民が利用する医療機関や商業施設などに向かう公共交通の充実
- ★建物の耐震化等による災害時の安全性の向上
- ★浸水等の災害時における一時避難場所としての活用

⑤ 交流人口の拡大

- ★市民と来訪者、双方の交流の場となる心地良く使いやすい駅前空間の創出
- ★まちなかのネットワーク拠点（商店や病院等）の活用と相互連携による回遊性の創出
- ★鹿島市の特産品や活動等を総合的にPRする場所づくり

● JR肥前鹿島駅周辺のまちづくりの視点



● まちなか整備の骨格

⑥ 事業への取り組み方

① 自然環境の保全・活用

② 歴史・文化・活動等の継承

③ 交通コントロール

④ 市民のための居場所づくり

⑤ 交流人口の拡大

<まちなか整備の骨格1>

【自然環境、歴史的文化的資産等の保全活用】

- ・ まちの背景となる豊かな自然環境の保全
- ・ 城下町期から近世までの重層的な歴史的文化的資産等の保全・活用

<まちなか整備の骨格2>

【快適で安全な駅前交通のコントロール形成】

- ・ JR 肥前鹿島駅前広場の交通の整序化
- ・ 駅～中心市街地を快適かつ安全に回遊できる歩行ネットワークの形成

<まちなか整備の骨格3>

【地区生活環境の向上および地区内拠点ネットワークの形成】

- ・ 市民のための居場所や来訪者との交流空間等の創出
- ・ およびそれらの拠点をつなぐ交流循環ネットワークの形成

まちなか整備構想図

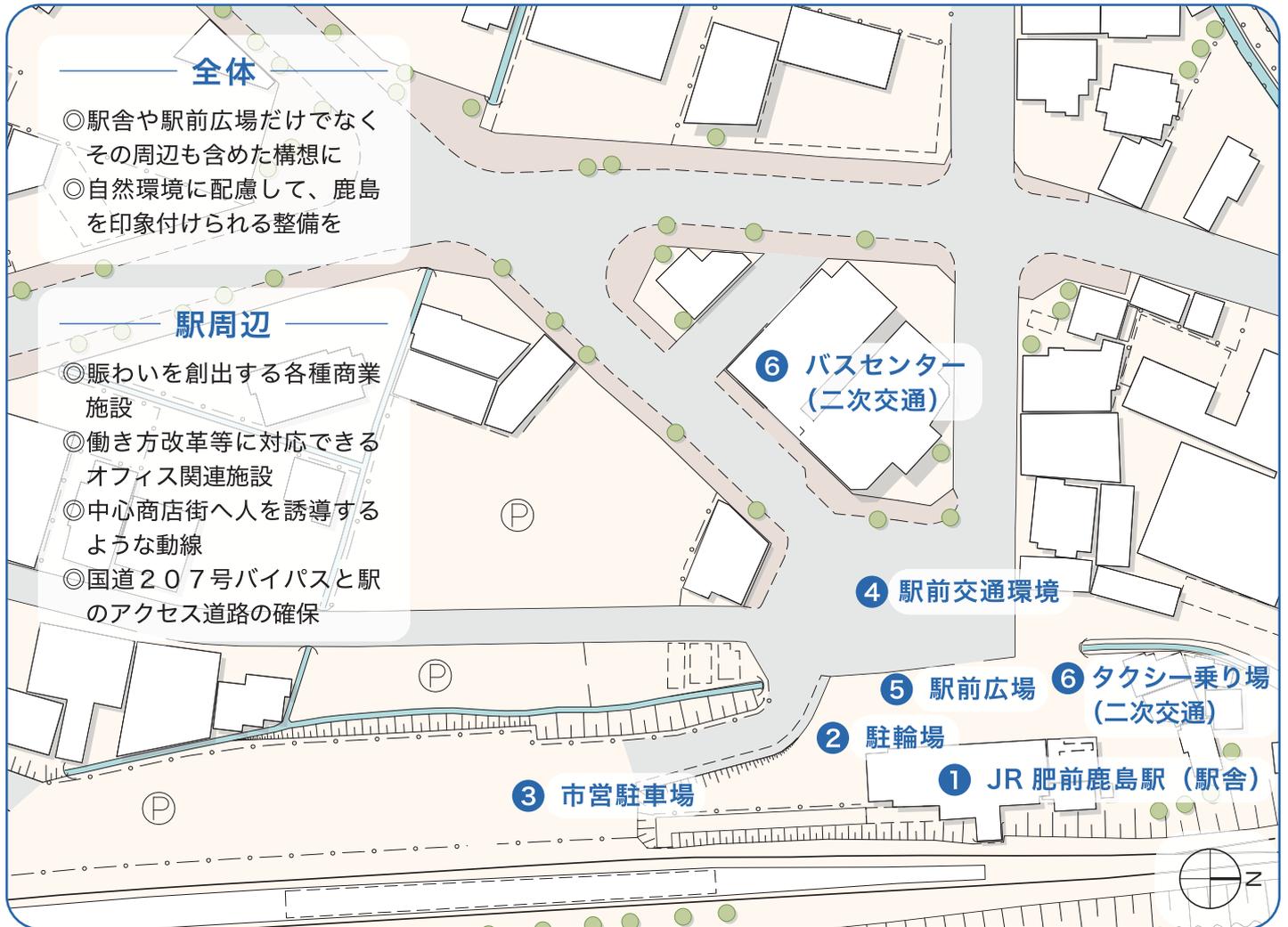
- 鹿島高校生・通学主要ルート(自転車)
- 市街地内歩行者ネットワーク
- 循環バス等ルート
- 街路樹
- 旧長崎街道
- ネットワーク拠点



「ネットワーク拠点」とは、

- ・ 市民の日常生活等において、買い物や通院等の施設、機能や地域活動を行う身近な場所を示します。
- ・ 来訪者の市内周遊等においては、観光拠点付近あるいは拠点間で地域住民とふれあい、交流できるような場所を示します。

● JR肥前鹿島駅及び駅周辺の主要課題（ヒアリングやアンケート等からのまとめ）



全体

- ◎ 駅舎や駅前広場だけでなくその周辺も含めた構想に
- ◎ 自然環境に配慮して、鹿島を印象付けられる整備を

駅周辺

- ◎ 賑わいを創出する各種商業施設
- ◎ 働き方改革等に対応できるオフィス関連施設
- ◎ 中心商店街へ人を誘導するような動線
- ◎ 国道207号バイパスと駅のアクセス道路の確保

1 JR肥前鹿島駅（駅舎）

- ◎ 通学利用者等の待合機能強化（利用時間・冷暖房・Wi-Fi）
- ◎ 来訪者（観光客・ビジネス客）に対する情報発信機能強化（特に外国人）
- ◎ 二次交通案内機能（バス・タクシー・レンタカーなど）
- ◎ 土産物などの特産品の販売力強化
- ◎ 飲食ができる店舗
- ◎ 電車などを眺望できる場所
- ◎ 電車を利用しない人も集まれる機能
- ◎ 災害時の防災機能（避難機能）
- ◎ 改札からホームへの動線短縮
- ◎ 交通系ICカードの利用
- ◎ 肥前浜駅のような古いものを活かす視点
- ◎ 清潔で利便性の高いトイレ整備
- ◎ 駅東側とのつながり創出

2 駐輪場

- ◎ 雨に濡れない屋根付きの駐輪場
- ◎ 自転車を入れやすく出しやすい仕組み

3 市営駐車場

- ◎ 駅舎とのアクセス強化（動線短縮）
- ◎ 無料駐車時間の拡大（送迎車両の一時駐車）
- ◎ 雨に濡れない屋根付きの通路
- ◎ 災害時の防災機能（車中避難）
- ◎ 近隣商業施設との駐車場連携（買物客の無料利用）

4 駅前交通環境

- ◎ 車と人や自転車の動線の重なりを解消し、安全性の向上
- ◎ 送迎車両の多重縦列駐車解消
- ◎ 歩道の整備
- ◎ 不要不急の通過車両の排除
- ◎ 飲食店送迎車両待機所の整備

5 駅前広場

- ◎ イベントスペースの確保（賑わい空間の創出）
- ◎ 緑のある公園・ベンチ

6 バス・タクシー乗り場（二次交通）

- ◎ 駅とバス乗り場のアクセス強化（車との動線重なりの解消）
- ◎ 雨に濡れない屋根付きの停留所
- ◎ 電車とバス・タクシーの乗り継ぎ動線短縮・機能強化
- ◎ 市内観光地や市外主要地点に向かう便数の確保
- ◎ 市内の医療機関や商業施設などに向かう公共交通の充実
- ◎ 観光客用のレンタカーやレンタサイクルの充実
- ◎ 環境に配慮した超小型モビリティ（電気自動車）の採用

● JR肥前鹿島駅周辺整備全体構想 ゾーニング図



A 新駅舎

来訪者や市民への情報発信機能や二次交通案内機能の強化、駅利用者の利便性向上などのため、新駅舎を新設します。

B 現駅舎

整備が終わった肥前浜駅や肥前七浦駅と調和を取りながら、歴史と記憶を継承する肥前鹿島駅の原点として、駅利用者の居場所として整備します。

C 公共交通ロータリー

路線バスやタクシー、市内循環バス、のりあいタクシー、リムジンタクシーなどの乗降場を確保します。高速バスや観光バスの拡張余地も考慮します。

D 一般車ロータリー

朝を中心としたお見送りの乗降場を確保します。夕方を中心としたお迎えの車両の一時待機所は、市営駐車場の利用を促します。

E えきまち広場

中心市街地との連携強化のため、歩行動線を意識し、親子や高齢者等の多様な人々の居場所となり、イベント開催等にも対応する広場空間の整備を検討します。

F 賑わい拠点施設

中心市街地と駅とを繋ぐ場所に、魅力と賑わい創出の拠点として、電車やバスを利用しない人達も集える施設(建築物等)の整備をえきまち広場と一体的に検討します。

G 市営駐車場

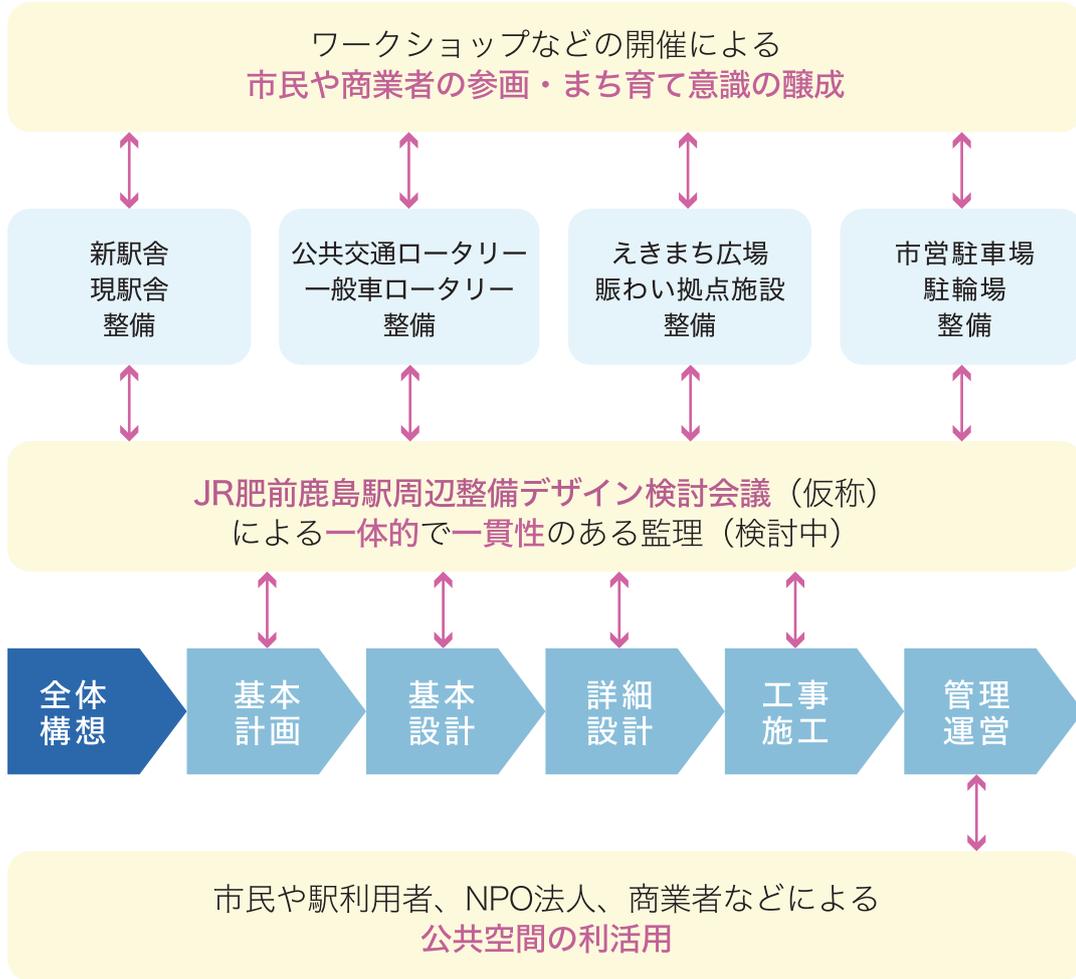
電車やバス利用者の駐車場の機能に加えて、お迎え車両の一時待機所として活用します。駅舎への動線は、展望広場を介した動線短縮を図ります。

H 駐輪場

自転車を使う高校生の通学動線はスカイロード側が望ましいため、えきまち広場西側に整備することを基本とします。

● 今後の推進体制

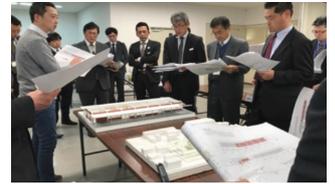
JR肥前鹿島駅周辺整備全体構想の実現にあたっては、今後の『基本計画』『基本設計』『実施設計』『工事施工』『管理運営』の各段階において、より幅広い市民や商業者等が各々の役割分担の下、『人と自然がつながる私たちの“まちの駅”』の実現に向けて、積極的に参画していくことが重要となりますので、そのための検討体制の構築を行います。



※イメージ写真



▲シンポジウム



▲デザイン検討会議



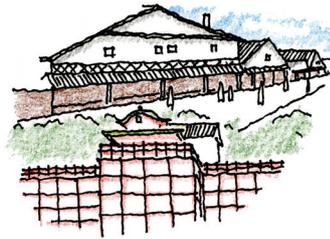
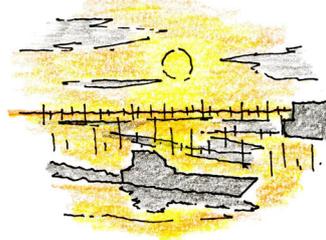
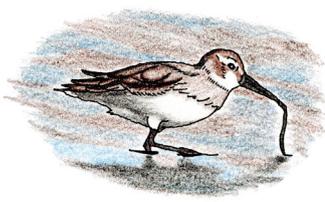
▲市民ワークショップ



▲施工段階での市民参加

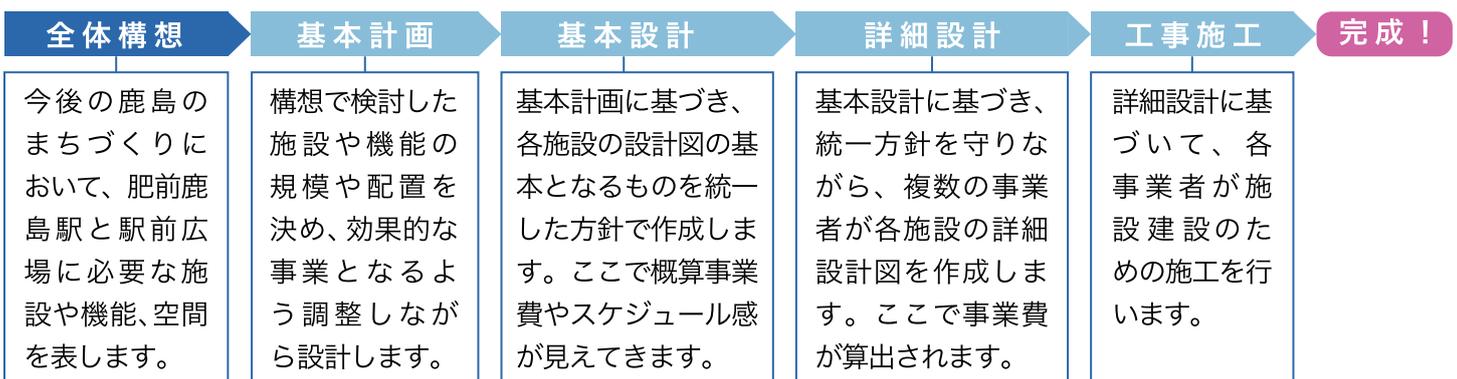


▲市民現場見学



● スケジュール

現在は全体構想の段階です！



● 整備イメージ図

【街なみを整えるための「仕組みづくり」】

民間活力誘導ゾーンの建築物についても鹿島の玄関口としての景観コントロールに努めていきます。

【駅周辺整備事業に参画してもらうための「仕組みづくり」】

全体構想策定段階から工事が完了し管理運営段階に至るまで、ワークショップなどの開催による市民や商業者の参画を促し、駅舎や駅周辺の整備は自分たちの事だと認識してもらう『まち育て意識の醸成』に努めていきます。

展望広場

新駅舎と市営駐車場を結びつつ、電車や山並みを眺望できます

A 新駅舎

来訪者や市民への情報発信機能や交通案内機能を強化し、利便性を向上させます

B 現駅舎

外観は昭和5年建設当時の面影を復原し、内部は静かな待合スペースを整備します

民間活力誘導ゾーン

官と民が協力しながら、民間の商業施設やオフィス施設などを誘導します

E えきまち広場

多様な居場所として、イベント等でも活用しやすいように整備します

F 賑わい拠点施設

中心市街地と駅を繋ぐ新たな賑わいを生む施設（建築物等）として整備します

経ヶ岳

浄土山

琴路岳

蟻尾山

鹿島城跡

オモニ
思瓊神社

G 市営駐車場(送迎車両一時待機所)

展望広場を通して新駅舎への動線を短縮しお迎えの車両はここで一時待機できます

D 一般車ロータリー

お見送りの車両の乗降場になります

G 市営駐車場(パーク&ライド)

駅やバス、周辺施設を利用される人の駐車場です

【駅前空間に公共交通機関を集約するための「仕組みづくり」】

関係部署や公共交通を運行する民間事業者等と協議し、駅前空間を公共交通の結節点として強化していきます。

H 駐輪場

雨に濡れずに、自転車を止めやすい駐輪場ができます

C 公共交通ロータリー

雨に濡れずに、バスやタクシー等に乗り降りができます